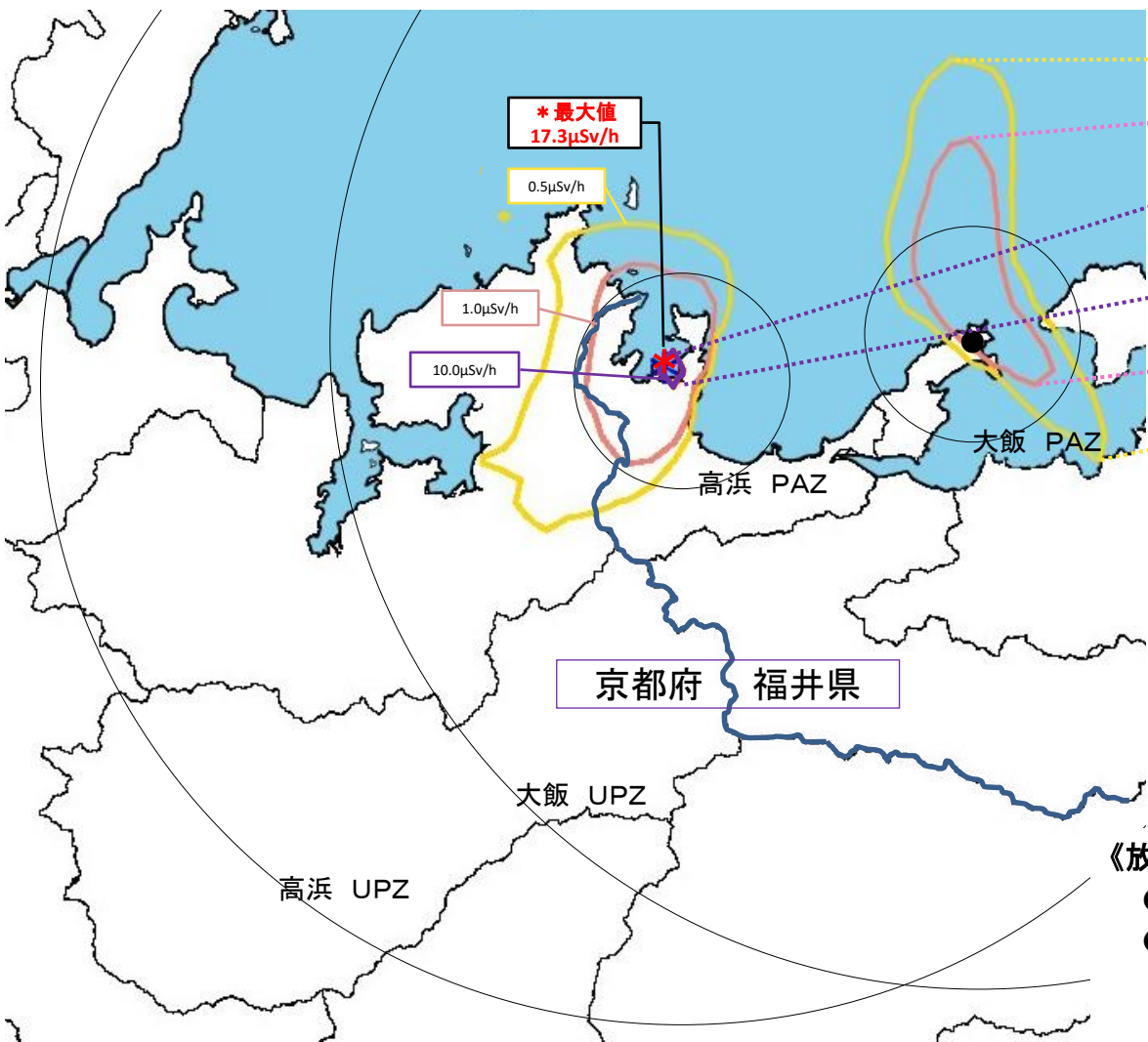


1時間あたり空間線量率(μSv/h) 放出開始(2016.09.24 AM1:00)から24時間後

《平均風速・風向》
福井県小浜観測所(地上高24.9m)の観測値 東南東 2.5m/s
高浜発電所上空(地上高76.5m)の推計値 南東～南南東 2.2m/s
《事故想定》高浜発電所・大飯発電所の各1炉が同時発災
放射性物質の同時放出



《拡散状況図の見方》

- 0.5 μSv/h
- 0.5 μSv/h以上～1.0 μSv/h未満
- 1.0 μSv/h
- 10.0 μSv/h未満～1.0 μSv/h以上
- 10.0 μSv/h
- 17.3 μSv/h以下～10.0 μSv/h以上
- * 17.3 μSv/h 拡散エリア内の最大値
- 10.0 μSv/h
- 10.0 μSv/h未満～1.0 μSv/h以上
- 1.0 μSv/h
- 1.0 μSv/h未満～0.5 μSv/h以上
- 0.5 μSv/h

■ 0.5 μSv/hは、原子力災害(放射性物質放出時)における飲食物の摂取制限を判断するための基準値(緊急時におけるモニタリングポスト計測値の公表区分値)

拡散予測結果

UPZ内の防護措置は、屋内退避(建物内での待機)

避難となる地域(1時間当たり20μSv超の避難地域)はありません。

木造家屋内で屋内退避する場合、沈着した放射性物質からの放射線等の影響に対して60%の低減効果があるとされています。

《放射性物質の放出状況》

- 放出核種 セシウム ヨウ素
- 放出量 新規基準は重大事故発生時に放出される1炉当たりのセシウム137の放出量を100TBq(テラベクレル)以下としている。
今回の計算では、セシウム137が各発電所からそれぞれ最大の100TBq放出されたと設定し、その他核種は福島事故時のセシウム137の放出量に対する割合で設定。

【放出量(高浜・大飯各1炉)】※10時間に渡り均等に放出。
 ・セシウム137 100TBq×2炉 ・ヨウ素131 1,070TBq×2炉 ・セシウム134 308TBq×2炉 ※希ガスについても考慮